

# エデュコ **Educo**

No.50  
2019年

## 南利幸さん

巻頭インタビュー  
気象予報士  
p.2



### 知っておきたい教育 NOW p.4

- ① まずは全ての小学生に楽しいプログラミング体験を
- ② 今からでもすぐに取り組めるプログラミング教育

### きょういく見聞録 p.8

- ① 異年齢の子どもが同じクラスで学ぶ「イエナプラン教育校」の新設に向けて
- ② 個に応じた学びの実現をめざして

### 地球となかよしトピックス p.10

「感性」を磨く  
～あらかっ子俳句をつくって未来を拓く～

### Information 北から南から p.12

### 地球となかよしゼミナール p.14

珍樹の出現！  
それは、私たちへのメッセージ (3)

### コラム p.15

小学校英語の教材

### ほっとな出会い p.16

那須トレーニングファーム代表

広田 龍馬・広田 思乃さん

# 人々の生活と安全を守る 気象予報を伝えたい

気象予報士 | 南 利幸さん

## 趣味の釣りがきっかけで 気象の道に

子どものころから釣りが趣味で、釣りに行くとなると、その日の波の高さや風の強弱など、天気予報がどうしても気になります。そういうところから自然と、天気や気象に興味をもつようになっていったように感じます。

高校では地理の授業が一番好きでして、天気も地理も地学的なことも好きだった関係で、広島大学総合科学部を選びました。

学生時代は気象に関係するアルバイトをいろいろとやらせていただきましたね。印象に残っているのは N T T のお天気ダイヤル（177）に吹き込む仕事です。今は合成音声で、自動的にデータが吹き込まれていますが、昔は人が吹き込んでいたんですよ。

当時は広島に住んでいたのですが、18時・21時・朝の6時に天気予報が入ってくるたびに、広島や鳥取など、中国地方の天気予報を吹き込んでいました。「ピンポンパンポーン、広島気象台、午後6時発表の天気をお知らせします……」と。鉄琴があつて、押すところが決まっていたりしてね。

そういったアルバイトをさせていただくうちに、この仕事はおもしろいと感じまして、気象の世界に飛び込むことになりました。

## 試行錯誤の新人時代

卒業後は日本気象協会に入社したのですが、そこは天気予報を解説する部門、調査をする部門など、いろいろな部門がありました。私はつきり調査をする部門に入るとののだと思っていたのですが、ふたを開けてみると解説をする部門に配属されたので

驚きました。

話すトレーニングなどは全然やっていないんです。理系の人は話すことが苦手な傾向にあります。が、私自身も話すことは大の苦手で。だから始めは全くしゃべることができなくて、困りましたね。

この仕事はまずラジオの気象解説から入り、それから段階的にテレビでのお仕事をいただくというのが慣例です。しかしラジオで話していても、

相手の方から何も反応が返ってこなかったり、質問をされても何を答えていいかわからなかったりなど、どうしようかと戸惑うことの連続でした。

でもある時ふと思っただんです。相手の顔が見えない分、ラジオで話すのも、電話で会話するのも同じかもしれない。要は親や友達と電話で話しているような雰囲気であればいいんだと気づいたんですね。そのあたりから楽になりました。質問にも、その場で全部答えなきゃいけないと思わなくなったのですが、調べた後でご連絡すればいいんだと気づいてからは、わからないことにはわからないと言えるようになりました。

そうやって、数年くらいすると段々と話し方のコツのようなものがつかめてきました。

## 天気予報にもオチは必要

毎日放送のラジオの仕事では鍛えられましたね。関西の放送局なので、収録では落



## PROFILE

1965年兵庫県生まれ、岡山県育ち。広島大学総合科学部、同大学院生物圏科学研究科修了後、日本気象協会に入社。平成6年、第1回気象予報士試験に合格。現在は「NHKニュースおはよう日本」土日・祝日の朝の時間帯のほか、神戸放送局の気象情報やラジオにも出演中。南気象予報士事務所代表取締役、京都府立大学非常勤講師。4人の娘の父でもある。

語家さんや吉本の芸人さんが一緒なのですが、そこで言われたのが、「お前の話にはオチがない」と。「お前は天気予報を言うてるだけか、オチを探して来い」と言われて。関西のラジオで「オチがない話など誰も聞いてへん」は常識です。確かに、誰も聞いていない天気予報を提供しているのかという思いがありました。単純に今日は晴れますよとか、空気が乾燥してますよとか、暑いですよとかいうだけでは聞いてもらえない。おもしろいことを言って話にオチをつけて、聞いている人をつかむのは大事なことでと実感しました。

ただ、いろいろなことを勉強しないと話のオチは出てきません。それからは普段出勤するときから、周りに何か落ちてないか気をつけるようになりました。

周囲の人はどんな会話をしているか、どんな花が咲いているか、半袖の人はどれだけいるのか。通勤しているだけでも何かしらネタはできます。

オチをつけるように話をするよう心がけていると、相手との呼吸のようなものがかかってきたので、貴重な経験だったと思います。

**視聴者に刺さる表現を求めて、言葉を研ぎます**

視聴者にわかりやすく伝えるため、言葉は常に探していますね。探すというより、言葉を研ぐような感じですか。研がないと、言葉が突き刺さらないんですよ。

例えば台風が来て大雨になっているときに、避難行動に結びつけるためにはどう伝えるべきか。大雨が「降りやすい」と言ってしまうと、降るのかどうかばうつとしている。「この時間にこの場所降りますよ、非常に危険なので逃げないといけないですよ」と、そういうときの言葉一つの選び方に人命がかかってくるわけですよ。無駄な言葉はそぎ落として、研いで研いで研いで……。



普段の天気予報は、楽しく・おもしろく聞いているだけのものであればいいと思うんですけども、気象の災害は増えてますし、この先減ることも考えられない時代に入っています。気象予報士がどこまで伝えることができるのかというところは常日ごろ考えますね。今の現象がどういう状況で、この先どうなるのかというのを、きちんと伝えられることが大事。きちんと伝えられる人を増やすことが、減災につながる、命を守ることに繋がると思っています。

**小学校での出前授業は大人気**

毎年1回、小学校に赴いて、3年生の児童を対象に天気の出前授業をしています。娘が通っている小学校からお話をいただいたのがきっかけだったのですが、地域の大人たちが学校を支えるのは大切だと日々考えていたので、お引き受けしました。少しでも本物にふれる機会になればと思っています。毎回、雨量計や風速計などの観測器械を持っていきます。竜巻の実験などは興味深そうに見えていますね。温暖化の話題も、身のまわりの昆虫にからめて話したりすると、積極的に発言してくれそうです。

子どもたちには自分の好きなことがあったらとことん追求してほしいですし、どんどん好きな方向に進んでほしいですね。好きなことなら勉強だって負担になりませんが、嫌々やっていることにはどうしても限界がありますから。私自身が、自分の好きな方向に向かっ

ているうちに、仕事が絞れてきましたので。親や教師がやるべきことは、子どもが好きなことを見つけてくれるよう手助けし、方向を指し示してやることではないでしょうか。子どもたちがそれぞれ自分なりの才能を伸ばしていければ、もっとおもしろい日本になる気がしますね。

**人気の国家資格ながら基礎は不可欠**

気象予報士という資格は誰でも受けることができる国家資格です。業務経験とか大学での必須科目とか、そういう過程が全くなくても、試験にさえ受ければ取れてしまいう。しかし気象予報士の資格だけをもっていても、中身が浅い人が意外とたくさんいらっしゃいます。基礎がない人が多いのです。

気象予報士を目指すのであれば、やはりそういった勉強ができる学部や大学院に通い、きちんと段階を積んだ上で資格を取るのが一番いいかなと思いますね。そういった基礎がないと、ただ単に天気予報を喋っているだけで解析ができないなんてことになるので、土台はやはり重要ですよ。

協調性も大事。私は常にスタッフの方々とか話をして、仲良くするよう心がけています。テレビ収録の際に画面を変えてくれるのは、気象班のスタッフたちなのですが、「ここで変えて」とは言ってませんし、合わせる練習も特にしていません。適当に変えてとは言っています。「適当」って意外と難しいと思うんですが、お互い、阿吽の呼吸でうまくいっているんです。そうした阿吽の呼吸を作るには、普段からある程度仲良くしていないといけないと思います。気象が好きなのは気象予報士の必須条件です

**後進の活躍に期待**

これから気象予報士になる人たちに大事にしてほしいことは、日々勉強すること。向上心が最も重要だと思います。気象分野も日進月歩で、情報はどんどん変わっていきます。学び続けることによって、予報の精度も上がっていくわけですが、それができるかどうか。ただ目立ちたい人、テレビに出ることが最終目的になっている人がいますが、そういう方はその先伸びません。なんで私がこんなに勉強しないとイケないのって思うようになってしまってますね。その方の予報を聞いている地域の人は、正しい情報を得られていないから、すごく損をしている。それはとても残念なことですよ。

女性は結婚や出産などで仕事を離れる時期もありますが、ブランクを乗り越えてなお仕事をいただけるように、若い人に負けないだけの知識を身につけてほしい。それは自分を守るためでもあります。

いま、だいたい月に2回くらいのペースで、うちの会社（南気象予報士事務所）に所属している者を集めて、勉強会を開いています。30歳前後の人が多くんですけども、今の若い人たちは喋るのが本当にうまいですね。ここにきちんとした気象の解析や、天気と生活とのつながりについて解説ができるよう勉強していけば、飛躍的に成長するでしょう。彼らから学ばされることも多々あります。

若い人たちの活躍が楽しみですし、彼らのこれから大いに期待しています。

# まずは 全ての小学生に楽しい プログラミング体験をい



東京学芸大学教育学部准教授  
高橋 純

## ポイント

- ①小学校プログラミング教育では、論理的思考力を身につける
- ②まずは、子どもたちにとって楽しい体験になるように
- ③学校間の格差をなくすことが課題の一つ

## プログラミング教育の背景

文部科学大臣は2019年4月に「新しい時代の初等中等教育の在り方について」を中央教育審議会に諮問した。

今世紀は、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤となっている知識基盤社会と言われており、人工知能(AI)、ビッグデータ、Internet

of Things (IoT)、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられ、社会の在り方そのものが現在とは「非連続的」と言えるほど劇的に変わるとされる Society 5.0 時代の到来が予想されています

諮問の冒頭にあるこのメッセージは、まさにプログラミング教育が必要とされる背景であろう。

時代が変わっても変わらず必要とされる教育もある一方で、その時代に合わせる必要となる教育もある。後者の一つが、プログラミング教育といえる。先端技術の基本を学ぶためにプログラミングを体験したり、そうした開発者や研究者になるためのきっかけを小学校で得たりするのである。

## 学習指導要領と

### プログラミング教育

プログラミング教育の実施についてさまざまな意見がある。そこで改めて原典を確認したいと思う。新しい小学校学習指導要領では、総則に、

児童がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動

と示されている。小学校のプログラミング教育における最上位の記述とはいえ、教科等の実践においても、この記述に基づいて実施されることになる。まずプログラミングを体験することが

重要となる。総則以外には、5年算数(正多角形)、6年理科(電気)、総合的な学習の時間に記述がある。小学校学習指導要領解説総則編には、

子供たちが将来どのような職業に就くとしても時代を越えて普遍的に求められる「プログラミングの思考」(自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力)を育む

と、「プログラミング的思考」と、その定義が示されている。同時に、「プログラミングに取り組むねらいは、プログラミング言語を覚えたり、プログラミングの技能を習得したりといったことではなく」といった記述もある。つまり、プログラミング言語や技能というより、思考(論理的に考えていく力)を育む教育といえよう。論理的思考力とプログラミング教育については参考図書でまとめている。

さらに詳細は、文部科学省「小学校プログラミング教育の手引」に示される。同手引では、プログラミング教育のねらいを、次の3つに整理している。

- ①「プログラミング的思考」を育むこと、
- ②プログラムの働きやよさ、情報社会がコンピュータ等の情報技術によって支えられていることなどに気付くことができるようにするとともに、コンピュータ等を上手に活用して身近な問題を解決したり、よりよい社会を築いたりしようとする態度を育むこと、
- ③各教科等の内容を指導する中で実施する場合には、各教科等での学びをより確実なものとする

このうち①や②は、プログラミングを教育内容として学習する意味合いが強い。この際に参考にすべきは、さまざまな教科等と同様に資質・能力の三つの柱であろう。

【知識及び技能】身近な生活でコンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることに気付くこと。  
 【思考力、判断力、表現力等】発達の段階に即して「プログラミング的思考」を育成すること。

【学びに向かう力、人間性等】発達の段階に即して、コンピュータの働きをよりよい人生や社会づくりに生かそうとする態度を涵養すること。

同手引によれば、アルゴリズム（問題を解決する手順を表したもの）などの本格的なプログラミング教育は「中学校や高等学校の各教科等で学習しますので、小学校段階では、こうしたことへの『気付き』が重要と考えられます」としている。中学校の技術・家庭（技術分野）では、プログラミングに関する学習が従来の倍増となり、高等学校の情報科では共通必修科目が新設され、全ての高校生がプログラミングによって問題を発見・解決する学習を行うこととなっている。このように小学校の学習が中学や高等学校に接続していく。

### なにかから始めたらいいか

義務教育諸学校教科用図書検定基準により、少なくとも算数（5年）と理科（6年）の新しい教科書には、プログラミングに関する学習活動が記載されている。まずは全ての小学校において、教科書に記載されているプログラミング教育が実践されることを期待したい。教科書には小学校教員なら誰でも教えられるような工夫がある。

総合的な学習の時間では、探究的な学習の過程に適切に位置づくようにすることが求められている。文部科学省、総務省、経済産業省が連携して取り組む「未来の学びコンソーシアム」では、2019年9月を「未来の学びプログラミング教育推進月間」と設定し、民間企業と連携し、総合的な学習の時間における指導案の配信や実践事例の創出を行っている。こうした事例が参考になるであろう。

一方で、プログラミングを扱う授業を数多く拝見してきて感じることは、学校の格差である。同じ指導案でも、半分の時間で終わってしまいう学校から、最後までたどり着かない学校まである。ICT環境整備、情報活用能力の育成など、これまでの積み重ねの差が大きい。少なくともICT環境があり、児童が基本的なICT操作スキルを習得していなければ、簡単なプログラミングの体験であってもなかなか先に進まない（図1）。ましてや、算数や理科において教科等の目的を達成する手段としてプログラミングを行うのであれば、児童がプログラミングの体験をしていることはもちろん、基礎的なプログラミングの知識・技能、プログラミング的思考に関する学習を行っていないければ難しいであろう。とはいえ、時数も含め実施が簡単

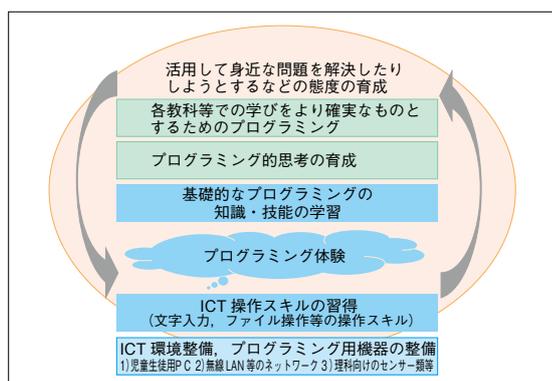


図1 プログラミング教育のねらいの達成のために

ではない学校も多い。その場合、まずは「楽しいプログラミング体験」が目標となる。楽しさを忘れた実践ほど残念なことはない。実施が困難な学校であるほど、一層時数は限られている。わずかにコマの実施であっても、児童が楽しい、もっと学びたいといった感想をもつ体験が重要である。それが教科等への学習など、次につながる。プログラミングを専門的に学ぶ、教育課程外や学校外の教室につないでいくこともできる。まずはわが国の全ての小学生在、楽しいプログラミング体験をすること、ここから始めたい。

### 【参考図書】

高橋純、三井寿哉（2019）『これが知りたかった！すぐにできるプログラミング授業実践小学校理科』、東洋館出版

# 今からでもすぐに 取り組める プログラミング教育



札幌市立琴似中央小学校校長  
菅野 光明

## ポイント

- ① まず必要なのは、「教師のプログラミング体験」。
- ② 児童のプログラミング体験では、「意図した動き」を実現する楽しさを。
- ③ プログラミングのよさを「活用」して、教科のねらいをしっかりと達成する。

新小学校学習指導要領の全面実施が迫るなか、各校のプログラミング教育の取り組みに大きな差ができていく。未だに「何をすべきかわからない」と悩んでいる学校も多いと聞く。本稿では、昨年度の自校の実践をもとに、今からでもすぐに取り組めるプログラミング教育についてお伝えする。

## まず、教員がプログラミング体験を

教員がプログラミング教育に不安を感じるのは、ほとんどの教員にプログラミングの経験がないからである。そこで、私は、まず、教員自身のプログラミング体験が必要だと考えている。

現在、インターネット上にはプログラミング教育を体験できるサイトがたくさんある。その一つ、「小学校を中心としたプログラミング教育ポータル」では、操作をわかりやすく説明した動画を見ながら、実際にScratchやViscuitを使ったプログラミングが体験できる。

教員のプログラミング体験は、「プログラミング教育II プログラマー育成」という間違ったイメージを払拭

し、プログラミング教育に対する不安感や抵抗感を減らすために最も有効な手段である。

## 児童のプログラミング体験

(1) コンピュータとはどういうものか  
自校では、児童のプログラミング体験活動の前に短時間の「学習」を行った。

### みんなに知っておいてほしいこと

- ・コンピュータはプログラムで動いているということ。
- ・プログラムは人が作っているということ。
- ・コンピュータには得意なところと、なかなかできないところがあるということ。

では、プログラミングにちょうせん!

図1 講義で使用したスライド画面

学習では、児童に炊飯器の操作パネルの写真を写し、その上で、「炊飯器のパンやケーキを焼くことができる



図2 スクラッチプロジェクトの画面

のは何故か?」「ご飯を炊こうとして、間違えて『パン』のボタンを押してしまつたら、どうなるか?」などについて考えた。体験の前に、日常生活を思い出しながら、改めて「コンピュータとはどういうものか」を考えるのが「学習」のねらいである。

(2) 「意図した動き」を実現できるから楽しい!

児童のプログラミング体験では、「意図した動き」を実現する楽しさを感じさせたい。

児童が体験で行う操作は簡単である方がよい。自校では、Scratchのプロジェクトを使用した(図2)(※1)。このプロジェクトでは、「見本ロボット」と同じ動きになるように、「自分のロボット」にプログラミングする。動きは、右手を「あげる」「横にする」「さげる」の三つだけである。はじめは、右手を1回あげるだけだが、次第に手を動かす回数が増え、動かし方も

少しずつ複雑になっていく。これらの動きを順番にプログラミングすること、児童が次のことを実感できるようにした。

・うまくプログラムしたつもりなのに、思ったように動かなかった。(失敗の実感)

・原因を探して順番や組み合わせを変えたら、思ったように動いた。(成功の実感)

・同じ動きでも「繰り返し」を使ったら、もっと簡単にプログラムできた。(効率化の実感)

## 教科でのプログラミング学習

(1) プログラミングを、授業のどの場面で、どう「活用」するか

5年生算数「正多角形の作図」は、学習指導要領に例示されている単元等で実施する『分類A』の学習活動である(※2)。自校では、単元を通してプログラミングを行うのではなく、単元のまとめの1時間でプログラミングを「活用」した。

教科学習用のプログラミング教材も、インターネット上にたくさん用意されている。「教育出版小学校算数プログラミング教材」は、プログラミング体験で使用したScratchと基本操作がほぼ同じである点や、正多角形の作図に特化している点が優れている。

プログラミングを活用した授業の概要(1時間)

学習課題「いろいろな正多角形を描いてその性質を表にまとめよう」

① プログラミングを使っていろいろな正多角形を描く。

② プログラミングで入力した数値(辺の数や角度など)を表にまとめ、

③ 表から正多角形の性質を読み取り、気づきを生かして、さまざまな正多角形を描く。

(2) プログラミングのよさを「活用」して、多くの気づきを

学習のポイントは、児童が正三角形を作図する場面である。正方形は全員が簡単に作図できたが、正三角形はほとんどの児童ができなかった。「正

三角形の一つの角」は60度であるが、60度の内角を描くには、進行方向に対して120度曲げる必要があるからである(図3)。

はじめのうち、児童は、適当な角度を入力したり、角度を調整したりして、正三角形を描こうとしていた。そのうちに、自分で歩いて図形を描いたり、進行方向と曲げる角度の図を描いたりして考える児童が現れた。

学級全体での意見交流では、表に数値を書き込みながら、気づいたことを発表した(写真1)。



写真1 授業の様子

## 児童の気づき

・ どの正多角形も、一つの角の大きさと曲げる角度をたすと180度になる。

・ 辺の数と曲げる角度をかけると360度になる。

・ きまりを使えば正角形でも描けるのではないか。

交流後、児童は、正六角形・正五角形・任意の正多角形を作図した。多くの児童が、作図の前に、辺の数によって曲げる角度を計算して、プログラミングを行っていた。自分が意図した通りの正多角形を描くことができると、児童からは「おお!」「やった!」という声が上がった。

また、任意の正多角形を描く場面では、「辺の数が多くなるほど、円に近くなる。」ことにも気づいていた。コンパスと定規・分度器だけでは正確に作図できない正多角形も、プログラミングならば可能になる。

この学習では、プログラミングの「活用」により、「円と関連させた正多角形の基本的な性質」をより確実に児童に理解させることができた。

## まとめ

これからプログラミング教育に取り組む学校は、はじめから新たな機器や教材を購入せず、まずは、インターネット上のサイトを利用するとよい。難しいプログラミングは必要ではない。プログラミング体験や教科での「活用」のねらいを明確にしながら、楽しく学習に取り組むことがプログラミング教育の第一歩であると考えられる。

## 個に応じた学びの実現をめざして

福山市教育委員会事務局

管理部学校再編推進室 室長 藤井紀子

### 「福山100NEN教育」の取り組み

本市では「子どもたちが、自ら考え学ぶ授業」づくりを柱として、平成27年4月から小中一貫教育に取り組んできている。その翌年には、日々の授業を中心とした全教育活動を通して変化の激しい社会に必要な資質・能力を育み、行動化できる学びをつくることを「福山100NEN教育」としてスタートした。この間、知・徳・体に係るさまざまな調査において、数値による結果が表れてきている。その一方、日々の授業での子どもたちの様子を見ると、発表や話し合いをしているものの、教員の質問に答えるのみで元気がない、面白そうに生き活きと学んでいないという状況が見られた。

そこで、福山100NEN教育3年目となる昨年度、「子ども主体の学び全教室展開～学びが面白い!～」をテーマに掲げ、全ての子どもたちが学ぶ意欲や知的好奇心を発揮できる学びづくりに取り組んでいる。

### 個々の学びを尊重する イエナプラン教育

平成29年から、認知科学や教育心理学における知見等も活用しながら、学びのメカニズム（子どもが考え学んでいく過程）を明らかにしていく中で、子どもたちは一方的に教えられて理解するのではなく、もっている知識や経験と繋げながら自分で考え理解し、その過程やスピードは一人一人異なることが改めてわかってきた。これらのことを踏まえ、平成30年10月、小学校7校をパイロット校として、子どもが学ぶ過程に即し、教科や学年の枠を越えたカリキュラムの編成・実施に取り組んでいる。その延長に、個々の発達や個性に合わせた学び、異年齢



集団で多様な他者との学びを重視した「イエナプラン教育」があり、県教育委員会、地元企業とともに、官民で協力してイエナプラン教育校の創設に取り組んでいくことを決定した。

### 開校に向けて

イエナプラン教育校は、学校再編後の福山市立常石つねいし小学校の校舎等をリニューアルし、新たな学校として開校する。開校に向け、常石小学校では、子ども主体の学びに向けた授業研究、イエナプラン教育協会の講師を招聘した校内研修等を通して、一人一人の教員が、これまで以上に、子どもたちの意欲や疑問を大切にしながら授業を行っている。

また、教室にカーペットや長椅子を置き、一人で静かに学んだり友達と対話したりするなど、学ぶ過程に応じて子どもたちの動きが自然に生まれるよう工夫している。そうした環境の中で、朝の時間を使ったサークル対話も始めており、テーマに沿った自由な対話が生まれるようになってきている。

来年度からは、1～3年生の全教育活動、4～6年生の一部教育活動を異年齢グループで行う予定であり、現在、ブロックアワー(※)、ワールドオリエンテーションの実施に向け、広島県教育委員会と連携しながら、具体的な単元開発および年間指導計画の作成に取り組んでいる。

学校を設置する常石町は、奉仕活動・相互扶助の「いっかこうりく一荷合力」の精神が古くから引き継がれている町であり、「イエナプラン教育を理解するための勉強会を開こう」「教育活動に積極的に協力したい」など温かい声をいただいている。

地域の方のご支援、ご協力もいただきながら、子ども一人一人の能力・適性に応じた多様な学びの場の一つとして、伸びやかで創造性のある「イエナプラン教育校」の創設に全力を尽くしていきたい。



※ブロックアワー：1週間を基本単位として、子どもたちが自分で立てた学習計画に基づき、自立的に学ぶ時間。各教科等の基礎的な内容を学習する。

## 国内公立校初！ 異年齢の子どもが同じクラスで学ぶ 「イエナプラン教育校」の新設に向けて 広島県教育委員会

個別最適な学び担当 指導主事 村田耕一

### 広島県の取り組みと国の動向

本県では、平成27年度から「学びの変革アクション・プラン」において、課題発見・解決学習を核とした児童生徒の「主体的な学び」を促す教育活動を推進してきた。この取り組みは着実に進み、成果も出ているが、一方で、全体指導を基盤とするカリキュラムでは、主体的に学ぶことが難しいと思われる子どもたちが一部に存在することも明らかになってきた。そうした中、内閣府が提唱する「Society5.0」において、個人の進捗や能力、関心に応じた学びの場づくりや異年齢集団での協働学習の促進など、新たな学校の方向性等が示された。この「Society5.0」が示す学校の姿や学びの在り方は、これまで以上に一人一人の子どもに寄り添った、多様で質の高い学びを実現することであると考えている。

### イエナプラン教育について

イエナプラン教育は、ドイツで始まり、オランダで広がった一人一人を尊重しながら「自律」と「共生」を学ぶ教育である。

その主な特徴として、学級が異年齢の子どもたち（小1～小3、小4～小6）で構成されることや子どもたちが目標達成に向け、自ら学習内容や学習方法を選択し、自立的な学習を進めていること、対話を大切にし、教室での学習活動では、サークル対話という形式が繰り返し行われることなどがある。

昨秋、平川理恵教育長とともに、オランダのイエナプランスクールを視察した。個人の進捗や能力、関心に合わせて自立的に学習に取り組む子どもたちの姿や子どもたちがリラックスして過ごせるリビンググループと呼ばれる教室環境など、本県でも参考をしたい教育実践が行われていた。

### 個別最適な学び担当を新設

今年度4月、広島県教育委員会では、個別最適な学び担当を新設し、「Society5.0」が示す学校の姿、学びの在り方と親和性のあるイエナプラン教育を参

考に、児童生徒が学びの主体となる個別学習のカリキュラムを開発・編成するなど、個別の状況に応じたカリキュラムの在り方について研究を始めることとした。



長野県に開校した大日向小学校をはじめ、さまざまなオルタナティブスクールや国際バカロレアのPYPプログラムを実践する学校などを視察し、探究型のカリキュラムづくりや主体的な学びを生み出す教室環境等、先進的な取り組みについて調べ、その内容をもとに、広島県が考える個別最適な学びについて研究を進めているところである。

### イエナプランスクール開校に向けて

令和4年4月、福山市において、イエナプランスクールの開校を予定している。開校に向けて、イエナプラン教育協会と連携をしながら、福山市教育委員会とともに設置準備を進めている。

先日、イエナプラン教育協会の方を講師として、イエナプランの理念共有を進めるための研修を行った。関係機関や学校が連携し、理念共有、チームビルディングを進め、「学校づくり」という壮大なテーマのワールドオリエンテーション（イエナプランのハートといわれる協働的な学び）に取り組んでいきたい。

#### Key Word

#### 「イエナ・プラン」

ドイツ新教育運動の指導者の一人ペーターゼンが、1924年以降イエナ大学付属実験学校で試みた学校改革案。（中略）従来の8学年制を廃して低・中・高の3学年制とし、時間割、科目別によらぬ合科教授と集団作業を中心としたカリキュラム編成を基本とした。男女各生徒の自己活動性に信頼をおき、彼らの興味・関心に基づく学習を基本とするも、教師との共同活動が原則とされた。（『新版学校教育辞典』今野喜清ほか教育出版より）



# 新時代を創るのは 子どもたち



●日光修学旅行で外国の方に話しかける



●校内俳句コンクール「体育館に掲示」



●ヤエザクラ賞の色紙



●講師を招いて俳句の授業

## 千葉県我孫子市立新木小学校

### 「感性」を磨く

「あらかきつ子 俳句をつくって未来を拓く」

ふじさんのゆきにシロップかけたいな（1年）  
春の夜空を見上げて万華鏡（6年）

千葉県我孫子市立新木小学校は、全校児童453人、21学級。周りは田畑に囲まれ、時折、鳥やカエルの合唱が聞こえるのどかな学校です。今後、人工知能の発達、情報化の進展、グローバル化などにより、社会のスピードが速度を増し、今ある常識が非常識になる時代を迎えたとき、子どもたちに必要な力は『予測困難な時代を生き抜く力』であると認識し、その鍵を握るのは『感性』であると捉え、昨年度から俳句づくりの取り組みをスタートさせました。

### 感性とは何か

今や、学校教育において、知識や情報、技術では差異がなくなり、「ちがいを出すのが感性」です。人間だけがもっている感性とは、「感じ取る力」であり、何歳からでも、どこでも、誰でも磨くことができます。それを身につけるため、本校では俳句づくりを実施しています。

具体的には、自然や身のまわりを見つめ、発見したことや感じたことを17音で表現します。子どもたちには、心の中を見つめ、命の大切さに気づき、人を愛せる大人になって欲しいと願っています。

### 俳句づくりの実施 「目と耳と心を働かせて」

本校では、月に一度、俳句コンクールを実施しています。賞を授与するのは心を耕すためであり、決して優劣をつけるためではありません。毎月、7日前後を審査の日と決め、外部から俳人をお招きして審査しています。入賞した児童には、作品に挿絵を描いた色紙を全校朝会で渡します。大賞「ヤエザクラ賞」、入選「ケヤキ賞」、佳作「魔女賞」の三つがあります。



●「俳句コンクール」の結果発表



●校内の「俳句掲示板」



●全校朝会で子どもたちに紹介



●俳句ポストに作品を入れる子どもたち



●あらきっ子句集

## 「俳句ポスト」君は おなかぺこぺこ

実施にあたり、全校朝会の時、体育館に「赤いポスト」を持ち込み、「これは、俳句ポストです。なんと食事は俳句です。一句も入っていないので、ポスト君は、おなかです

いてたおれそうです。」と呼びかけました。すると、どうでしょう。わずか10日あまりで、千を超える作品が集まりました。平均すると、月に3千句程、夏休みと冬休みの後はさらに増えて6千句にもなり審査が難航します。

## うれしいお知らせがあふれ、「あらきっ子句集」の誕生

取り組みが始まり10か月が過ぎたころ、うれしい知らせが次々と舞い込んできました。「NHK全国俳句大会ジュニアの部・学校優秀賞受賞」、「きごさい全国小中学生俳句大会・学校賞受賞」のお知らせです。また、PTAの協力もあり、「あらきっ子句集」が完成できたことは大きな喜びでした。

## お願い 「お立ち寄りください」

子どもたちの感性は無限で、宇宙まで広がります。小学生の今しか書けない作品があるはず。感性を磨いて明るい未来を切り拓いて欲しいと願っています。

常時、作品を掲示していますので、ぜひ本校にお立ち寄りください。ご来場をお待ちしております。

全国各地のさまざまな取り組みを紹介します。

**令**和元年10月、幼児教育界は『無償化』という大きな変革期を迎えた。『無償化』は何を変えるのだろうか。本園は5年前より新制度（施設給付型幼稚園）に移行した。「こども園」と同様に働く女性への就労環境確保・子育て支援のために【預かり保育】を充実させる等、運営改善に取り組んできた。

私立幼稚園がこれまで果たしてきた社会的使命に加え、幼児教育が、現行の幼稚園指導要領に示されている理念を実践することで、30年後の世界の在り方を支える人材を育成するという大義をもつことである。その裏支えとして、幼児教育に携わる人材への給与改善・働き方改革も進められている。主任として処遇される条件としての悉皆研修の導入である。教育の質の向上のために外部の研修制度も必要だが、園内での研修体制の充実こそが未来を拓く人材育成のカギである。

本園では保育終了後に毎日、園児理解の情報

の共有に加え、特別支援教育の充実／幼小連携教育の実践理解の報告会を定例化している。それは、各教員の経験だけの判断に捉われず幼児の発達の主体的活動を支援し続けられることになる。加えて、経験に応じた外部での研修の順序性の理解、専門分野の自己啓発の研修までを一体化して取り組んでいる。各教諭が成果を示すのは園内研究課題「異年齢交流の実践」である。園児を学年や学級の壁を取り払い、担当が毎回変わりながらグループで終日活動する。実施前にそのグループの課題や活動の重点を仮説する。指導後に次回への課題を明確にする。この時、幼稚園教諭が〈個〉の成長過程を個別に見極め、支援できる保育の専門性にたった協議が行われるかにより同僚性の高い組織づくりが実行される。〈見守りから主体的学びへの促し〉へ向けた保育風土が試される。



東京

30年後を委ねるために

葛飾しらゆり学園幼稚園 園長 木室 忠明



**み**なさんは「日学・黒板アート甲子園®」を知っていますか？

黒板やホワイトボードを製作する老舗メーカーの日学株式会社が主催する、黒板をキャンパスに見立てたアートの祭典。高校生たちの黒板アートがSNSなどで話題となるなか、もっと多くの人たちにこれらの素晴らしい作品や高校生のアート活動を広めたい！という思いから、2015年より開催している日本最大の黒板アートコンテストです。

過去4回で累計500を超える作品が集まり、参加者の人数は2700人を超え。最近では作品集として本にもなっています。

2019年の応募数は188点、応募学校数は109校、延べ946人の高校生が参加。誠恵高校からも、美術部の8名（2年4名、3年4名）によるチーム「オーバーオールズ」が参戦しました。

生徒たちの作品は「トウキョ



ウコネクト」。1964年・2020年の新旧東京オリンピックを題材に、チョークの色数の限界に挑んだ迫力あふれる作品です。

そして本作品は、なんと数ある作品の中から「日学特別賞」に入選！本校の校長室で授賞式が行われ、副賞としてスタンド式の黒板もいただきました。制作した黒板アートは1年間大切に保管されるため、今年は副賞のスタンド黒板を教室の掲示用黒板として使わせていただいています。

最後に、本作の審査員評をご紹介します。「新旧の東京オリンピックを対比させた作品です。それぞれの時代に合わせた女子高校生の制服のみならず、前回大会はレトロな色調で、次回大会はポップ色彩で表現したり、背景の夕日に浮かぶ街並みにも時代が反映され、眺めるとさまざまな発見があって楽しい作品です。色面分割技法を採用するなど、技術面でも工夫が凝らされています。」

静岡

黒板アート甲子園で生徒たちの大作が入賞！

学校法人誠恵学院誠恵高等学校 校長 飯島 修

## 京都

### 21・3世紀、世界を牽引する グローバル・ナビゲーターたれ

京都学園中学校 校長 佐々井 宏平

**本**校は生徒たちが社会に出て活躍する2030年代、世界を牽引する人になってほしいという思いを込めて、GN（グローバル・ナビゲーター）コースを設置している。中学では、英語4技能に力を入れており、1年次は日本人教員とネイティブ教員のダブル担任制を採用している。朝学習やHRはネイティブ教員がオールイングリッシュで行うことで、「使える英語」の習得をめざす。3年次には国際感覚を磨くために、全員が約2週間のカナダ・ノバスコシア州への研修旅行に参加する。現地教育委員会の全面協力の下、ホームステイをしながら多様性を大切にするカナダの交流校で授業参加やアクティビティを行う。本校ではカナダ以外にも、アメリカ・イギリス・ドイツ・フィリピン・ベトナム・ザンビアなど世界の国々の学校と教育連携を行い、中学では今年度より初めて希望者（一定の語学力を有する生徒を対象）が参加するスウェーデン研修（1週間）を実施する。

また本校の学びの根幹にあるのが探究型学習「地球学」である。テーマは「ホンモノに触れる」こと。氷河時代の植生が残る深泥池の観察会、かつて京都が海であったことを伝える枕状溶岩の調査、豚の眼球解剖などさまざまなフィールドワークや実習を行う。1・2年生全員が参加する京丹波地区での農村民泊は、京野菜の生産・流通・販売の理解を深めるとともに、インタビュー実践を通じて、地域の課題を知り、解決

策を提案する。夏休み特別プログラム（希望者対象）では、JAXA種子島宇宙センター見学など毎年、テーマや訪問地を変えて実施している。地球学では多彩な取り組みを通じて、生徒たちの知的好奇心に火を点け、興味・関心を広げていく。学年末には1年間の集大成として、一人一人がテーマを設定して、プレゼン大会に挑む。地球学を通じて、「学ぶことの意味や喜び」を経験した上で、将来の進路を考えてほしいと願うばかりである。



先輩部員は大変喜んでます。

本学は、人文学部の単科大学で学生数も約900名と小さい大学ですが、今年の1年生の入部の多さをみても、学生の選挙への関心の高さを感じます。若者の投票率の低さが危惧されますが、ライツの部長は、今後学内で定期的にアンケートをして、若者の投票率がなぜ低いか分析し啓発に役立てたいと前向きなので、今後がますます楽しみです。



## 宮崎

### 若者の投票率向上に向けて —宮崎公立大学選挙啓発部「ライツ」の活動—

宮崎公立大学 学長 有馬 晋作

**選**挙権18歳引き下げをきっかけに、宮崎の若者の投票率向上の啓発に取り組むため、平成28年4月に宮崎公立大学のサークル活動として「ライツ」を発足し、3年が過ぎました。

宮崎市選挙管理委員会と連携して、小中高校生への出前講義、模擬投票に力を入れています。選挙クイズによる講義、「宮崎市の活性化」をテーマに高校生がマニフェストを作成しての模擬投票など、いろいろと工夫して活動しています。また、大学祭では、選挙やライツの活動に興味をもってもらうため、選挙の質問に答えたり各政党の政策を比較して発表しました。選挙啓発の大学のサークルは少なく、平成30年度には、全国の明るい選挙推進協議会から、優良活動表彰を受けました。

特に選挙が近づくと忙しくなります。投票を呼び掛ける街頭でのビラ配りなど啓発活動はもちろんですが、今年7月の参院選は、テレビ、ラジオ、新聞の取材も多く、商業施設でのトークイベントへの参加など、いつもより活発な活動となりました。

実は、このような啓発活動は、以前、私（有馬）のゼミ活動として取り組んでいました。ところが、選挙権の18歳引き下げに伴って、1年生からメンバーにした大学の横断的な選挙啓発組織が必要と、サークルとして発足した次第です。2年前、サークルから部に昇格し部員は現在28名、今年は1年生が16名も入部して

# 珍樹の出現！ それは、 私たちにへのメッセージ

珍樹ハンター 小山直彦（第三回）

## 珍樹探しの楽しみ方いろいろ

樹木の中に現れる変わった構図を、何かに見立てて遊ぶ「珍樹探し」。最終回は、まず楽しみ方をいくつか紹介します。

珍樹探しの醍醐味は、探して写真を撮るだけではありません。コレクションした写真を、例えば動物なら干支などジャンル別に整理するとおもしろい。また、樹木別に分類すると種類で発見率の高低がわかるほか、同じ樹木は似たような形になりやすいなど様々な傾向が見えてきます。発見後は安否確認として、再会するのも楽しみ。台風などの被害で無残な姿を目にすることもありますが、定期的に珍樹の形を観察することで樹木の成長過程が楽しめます。一昨年から動物園で、珍樹と同じアングルで動物を写す相似形の撮影を始めました。最初は単にカメラで記録するだけだった珍樹探しも、だいぶ楽しみ方が広がりました。

### 安否確認をかねて再会する



キリンのように見えるシマサルスベリの模様。年月を経て、だいぶ印象が変わりました。

### 動物園で相似形の写真を撮る



本物の写真を並べると一目瞭然。どのように似ているのか説明する時にも役立ちます。

### モンスター樹木



流山市で発見したので名前はナガラヤマ星人。

### 落書木



目と牙を書き加えればセイウチの出来上がり。

子どもたちも、珍樹探しという既存の路線を少し教えるだけで遊びの幅を広げました。掲載写真にある、恐い顔を見つける「モンスター樹木」や、撮った写真に足りないパーツを書き加える「落書木」という着想も、子どもが見いだした遊びです。用意したものを次々に与える受け身の遊びでは、創造する力は生まれません。様々な気づきを通して自ら考え、それを自分の遊びにしている姿に、子ども本来のパワーを感じます。

## 樹木とコミュニケーション

よく小学生たちに「なんで樹木は、変わった形をするの？」と聞かれます。そんな時は「君たちと友達になりたいから、おもしろい形をして気づいてもらおうとしているんだよ」と伝えます。もちろん、樹木から聞いたワケではありません。しかし本当のような気もします。子どもたちとは常識や固定観念にとらわれず、自由な発想と遊び

心で楽しむことを心がけています。地球上に人間よりも先に誕生した樹木は、人々と長いこと交信したがついていた、と私は考えます。珍樹の出現は、声を出すことも動くこともできない樹木が生み出した一つの表現方法である、と。自然界がもつ知恵や能力は人間のように浅はかなものではないと思うから、珍樹と出会うたびに様々なメッセージを私は感じとるのです。

自然破壊についても、「環境を守ろう」「地球が危ない」などいろいろ述べることも重要ですが、まずは一人一人が意識改革をして自然への接し方を変えることです。私に子どもに珍樹探しを勧めるのは、遊びを通して樹木に興味を持たせ、自ずと愛着が生まれ、樹木を大切にしてくれると思うからです。これは私が珍樹ハンターの活動を続ける理由でもあります。いつか「樹木と友達になれたよ」という子どもたちが、私のもとにたくさん現れることを願います。

小山直彦(こやま なおひこ)  
1965年、東京都生まれ。公園や森などで珍しい樹木を探す「珍樹ハンター」。樹木を何かに見立てる「珍樹探し」を、新しい自然の遊びとして提案し続ける。著書「珍樹図鑑」(文春新書)。これまでに「珍樹アニマル探偵団」「樹木のそっくりさんフォトコンテスト」などイベントを多数開催。ウェブサイトは「珍樹の森コレクション」で検索。

## 小学校英語の教材



岐阜女子大学・大学院  
学長 松川 禮子

英語教材といってもさまざまであるが、教科書は言うまでもなく学校教育の「主たる教材」である。学校での教科指導は、「教科書で教える」ならまだしも、「教科書を教える」ことになりがちなのが現実である。小学校高学年で英語が教科になる。教科になれば、教科書を使う。これで小学校英語もつまらなくなると、筆者は発言したことがある。

その真意は、小学校における英語教育導入の歴史の中で、学級担任の先生方がさまざまな教材を自分たちで工夫し開発してきたことの成果を高く評価するからである。小学校の先生方が、現実味のあるコミュニケーション活動を仕組めるように、子どもの興味を引く教材・教具を手作りしている授業をたくさん見てきた。それは、教科書の紙面では提供できないダイナミックな場面設定に有効だった。道案内の地図の代わりに、体育館にダンボールで立体的な街を用意した授業には驚かされた。段ボールの街角に立った子どもたちは、道を教えた後も、無事に行けるだろうかと本気で見送っていた。

しかし、体験重視の外国語活動ならモジュール型の教材でも対応できるが、教科になって体系的な知識の習得や、継続的な技能の育成が求められると、一定の体系性や系統性をもった教材が求められる。それがコースブックとしての教科書である。同時に、いくら効果的だと言っても教員の「働き方改革」が強調される中で、手作り教材の負担を求めることは非現実的である。学習指導の拠り所となる教科書は、教員の負担軽減として重要である。

そういった視点で、今回検定に合格した7つの発



行者の教科書を教科書展示会で閲覧した。「教科書を使うとつまらなくなる」という先入観を少し変えねばならないと思った。予想を超えて、教科書は変わったという印象を受けた。これまでの中高の教科書は、いろいろ工夫はあっても本質的に読むものという域を超えていなかった。しかし小学校英語の教科書は、「話す」を「やり取り、発表」に分けた全部で5領域の目標や内容に対応する教材としての役割を明確に打ち出している。

全体的に、移行措置期間に使われている『Let's Try!』や『We Can!』とスムーズに接続するよう単元構成や活動内容に配慮がされている。児童が活動しながら書き込むスペースを多くとっていること、巻末の付録が充実していることは特筆すべきである。ミシン目で切り取れる付録には、単語カードのほか、名刺交換や、MyBook作成などの言語活動のためのシートなどがある。文字媒体の教材として読むものだと思われていた教科書が、さまざまな活動をするためのいわば学習材になっている。学習プリントやワークシートを別に準備しなくても教科書で対応できる点は、先生方の「働き方改革」にも助けになる。評価についても、自己評価できるチェックリストもあり、パフォーマンス評価にも対応できる工夫が随所に見られた。ICTへの対応も含め、教科書は大きな変革期に來たと感じる。

イラスト ひらた ひさこ <http://kore.mitene.or.jp/~twins7yh/>

第17回

## 地球となかよしメッセージ

作品発表の  
お知らせ

「第17回 地球となかよしメッセージ」入賞作品は  
『Educo』2020年冬号(2020年1月下旬発行予定)  
で発表します!

昨年度の入賞作品は、教育出版ホームページでごらんいただけます。

「地球となかよし」という言葉から感じたり、  
考えたりしたことを、  
写真やイラストにメッセージをつけて表現する  
「地球となかよしメッセージ」。  
今年度も、すばらしい作品が集まりました。



『Educo』バックナンバーについてはお問い合わせください。

# 馬を通して つながる社会

ほ・っ・と・な・出・会・い

那須トレーニングファーム代表 広田龍馬・広田思乃さん

## 尊敬は教育の 電流のスイッチ

10年以上前から働きかけてきた努力がようやく実って、那須塩原市では全国で初めて、義務教育の課外授業の一環として乗馬体験・乗馬教室を取り入れられました。ここ4年間で馬に乗せた子どもの数は2万人に上ります。

今の子どもたちは過保護にされすぎて、先生を尊敬していないし、教育現場に真剣味がないんですよ。昔は先生といえば怖い存在でした。今は子どもが悪いことをしても「駄目よ」と肩を押さえるのがせいぜいです。

その点、馬は相手が子どもだろうが大人だろうが、年齢性別で人を区別しません。馬の前ではみんな平等ですし、どんなにお金を積んでも正しい扶助をしなければ動いてくれません。

以前、学級崩壊させるほどの問題を起こす子どもが合宿に来た時のことです。オリエンテーションでも一人でウロウロして、注意すると三倍くらい屁理屈が返ってくるんです。自分が「お客さん」で「子ども」だから注意できないだろうと考えているんですよ。しかし、馬に乗せた瞬間ピタッと無駄口が止まりました。馬は人間より体も大きい、力も強い。どうすれば暴れないでいてくれるのか、安全に動いてくれるのか。恐れ、畏敬の念を子どもはもってくれるん



です。何も言わなくても馬は子どもたちに大事なことを全部教えてくれます。犬や猫ですとどんなに仲良くてもどうしてもベットの域を出ませんが、馬だけが人間と対等なパートナーとなり得るんですね。

## 馬がもたらす教育効果

馬は乗り手の心を映し出す鏡のようなもの。乱暴に扱ったら乱暴に返ってくるし、優しく扱えば優しく返ってくる。だからこそ子どもたちは自分自身を見つめなおし、自分の弱さや内面と向き合うことになります。嘘や建前が通用しない、本物の世界があるんだってことを、子どもたちに体験させたいんです。

馬との触れ合いがもたらす教育効果は絶大です。人とコミュニケーションをとれず、親に暴力的だった登校拒否の子を2カ月預かったところ、親御さんと先生がびっくりするほど変わりました。今のままでは学校に行けないから、自分から学校を変えたいと言って通い始めました。「この場所は本当に癒やしの場所です」と言っていた10歳の女の子もいましたよ。「学校で嫌なことがあっても、お馬さんに会うと忘れられます」と。

特別支援学級の子や児童養護施設の子も受け入れているんですが、家庭や、環境に問題があつて、うまくコミュニケーションが取れず、硬直したり、他の子を傷つけてしまう子どもがいました。しかし馬だけは、自分のあががまを受け入れてくれるので、「ものすごく穏やかになりました」と先生が驚かれました。先生や保護者の方々からはいつも絶賛の声をいただいております、予約開始になると、すぐに一杯になります。

## 夢は乗馬教室を全国規模に

今の子どもたちの一番の問題は、コミュニケーションが取れないことだと思います。人とうまく関われなくて苦しんでいる子どもたちを、馬を介在にして救ってあげたい。那須ホースガーデンでは老若男女・家族知り合い関係なく、馬を中心としたコミュニケーションができています。子どもにとっては学校や家庭以外の大事な居場所になっているんです。

私も昔は競技会で良い成績を残すことだけを考えていましたが、妻の思乃と出会って考えが変わりました。妻は国際福祉大学を卒業して、社会福祉士の資格もっています。児童養護施設でボランティアなども経験していて、妻の話を聞くうちに、自分は馬に助けられて今がある、馬を通じて社会貢献をしなればならないと思うようになったんです。

夫婦そろってオリンピックを目指すのは経済的にもなかなか大変なことではあります。馬術や馬の素晴らしい力に注目してもらうためにも、ぜひ東京五輪ではメダルを取りたいですね。

自分の使命は馬を通じてみんなに夢や感動、ありがたさという感謝の気持ちを伝えていくことだと感じます。本当に子どもたちには、生きることが素晴らしいことなんだと強く訴えたいですね。

広田龍馬：1976年生まれ。那須トレーニングファーム代表。2000年シドニー五輪代表、1995年、2001年、2007年、2008年全日本障害飛越選手権4回優勝。2017年那須塩原市長特別賞受賞。手権4回優勝。2019年全日本障害飛越選手権優勝。1983年生まれ。2018年全日本障害飛越選手権優勝。2019年ワールドカップジャンピングファイナル24位。2018年那須塩原市長特別賞受賞。

## Educo Salon

前号について寄せられたご感想です。

- ◆医療的ケアの必要な子どもたちにとって「もみじの家」の存在がもたらす成果について感銘を受けながら読ませていただきました。(岩手県 H.T)
- ◆佐世保市の高橋先生の実践からは、子どもたちの成長と、その裏での各先生の真剣に悩み考えられる様子が伝わってきました。(千葉県 H.M)
- ◆「小学校英語の指導者」興味深く読ませていただきました。ところで今の教育系大学における英語教育は大丈夫だろうか……と、ふと不安になりました。(高知県 E.M)
- ◆地球となかよしセミナーの「珍樹探し」が楽しい。珍樹の写真は美しさでなく、センスが重要。それが創造につながる。(福岡県 M.T)

## なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進歩や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命のびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。